

受験生が大学を多面的・総合的に評価する時代に向けて

今回THE世界大学ランキング日本版の制作に協力したベネッセコーポレーションの責任者に、日本版の意義と今後の展望について聞いた。

Times Higher Education (THE) のランキングは、最も信頼できる大学ランキングだと考えています。このTHEの国別ランキングとして、アメリカに次いで世界で2番目に発表された日本版。その制作を、ベネッセグループがサポートしました。THE側に日本の教育事情を伝えるとともに、高校教員への評判調査を実施し、受験生や留学生の進路選択、大学での改革推進に役立つものをめざしてきました。

先行して発表された世界ランキング、アジアランキングでは、大学院における研究力が重視されていますが、アメリカ版、日本版は学部の教育力が重視されているため、ランクイン大学の顔ぶれが異なります

(P.3参照)。例えば日本版には、世界ランキングにはランクインしていない一橋大、国際教養大、国際基督教大といった大学が見られるなど、日本の大学の特徴が表れたランキングになったと自負しています。

THEによって世界に公開されたこの日本版ランキングは、海外の学生には新鮮に映るのではないのでしょうか。これまで留学先として学生を引きつけてきたのはアメリカやイギリスでしたが、これら2か国の保護主義的な政策転換が高等教育に与える影響は大きいと考えられています。日本に学生招致の大きなチャンスが訪れています。

一方、国内では入試改革による多面

(株)ベネッセ
コーポレーション
大学・社会人事業本部
統括責任者

藤井雅徳

ふじいまさのり●(株)ベネッセコーポレーション高校事業部にて高校の教育改革支援や海外トップ大進学塾「Route H」開発に携わった後、現職。THE世界大学ランキングへの協力や語学・留学事業を通じて大学のグローバル化を総合的に支援。



的・総合的評価の導入が進んでいます。日本版の指標が大学選びに使われるようになると、偏差値一辺倒の時代から、受験生側も多面的・総合的に大学を評価する時代になるのではないのでしょうか。

また、指標が多様化したことにより、「学部は教育熱心な大学に、大学院は研究熱心な大学に」というような「中身」に注目した進学先選びも可能になると思います。